

武士道

日本の魂  
日本思想の解明

BUSHIDO:  
The Soul of Japan

新渡戸稲造著

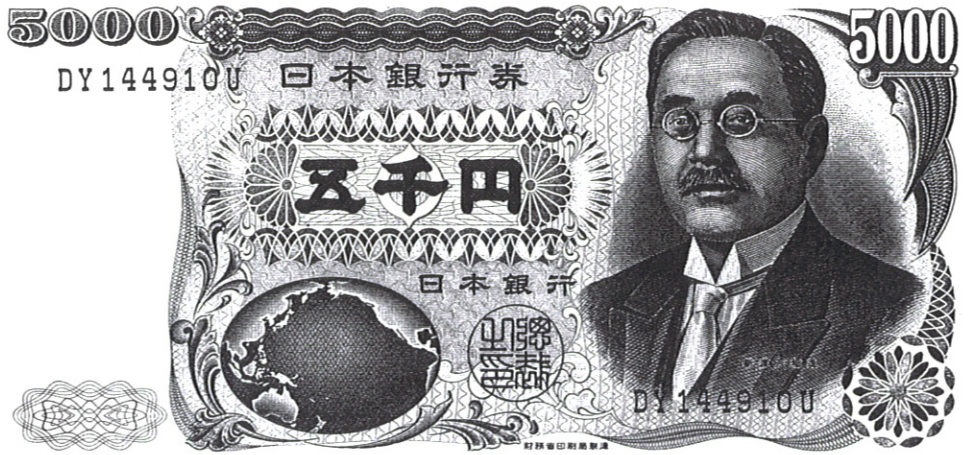
二三産業 TEL 06(6944)1231  
FAX 06(6944)1232

- ・文久2年(1862年)盛岡藩(現在の岩手県盛岡市)の奥御勤定奉行の三男として生まれる。
- ・明治6年(1873年)東京外国語学校英語科(のちの東京英語学校、大学予備門)に入学。
- ・明治10年(1877年)札幌農学校に第二期生として入学。のち東京大学選科入学。
- ・明治15年(1882年)農商務省御用掛となる。11月、札幌農学校予科教授。
- ・明治17年(1884年)渡米して米ジョンズ・ホプキンス大学に入学。
- ・明治20年(1887年)独ボン大学で農政、農業経済学を研究。
- ・明治22年(1889年)ジョンズ・ホプキンス大学より名誉文学士号授与。
- ・明治24年(1891年)米国人メリー・エルキントン(1857-1938、日本名:萬里)と結婚。帰国し、札幌農学校教授となる。
- ・明治30年(1897年)札幌農学校を退官し、群馬県で養蚕で『農業本論』を出版。
- ・明治33年(1900年)英文『武士道』(BUSHIDO: The Soul of Japan)初版出版。ヨーロッパ視察。パリ万国博覧会の審査員を務める。
- ・明治34年(1901年)台湾総督府民政部殖産局長就任。
- ・明治36年(1903年)京都帝国大学法科大学教授を兼ねる。
- ・明治39年(1906年)第一高等学校長に就任。東京帝国大学農学部教授兼任。
- ・大正2年(1916年)東京貿易殖民学校長に就任。大正6年(1917年)拓殖大学学監に就任
- ・大正7年(1918年)東京女子大学学長に就任。大正9年(1920年)国際連盟事務次長に就任。
- ・大正10年(1921年)チェコのプラハで開催された世界エスペラント大会に参加。
- ・大正15年(1926年)国際連盟事務次長を退任。貴族院議員に。
- ・昭和4年(1929年)太平洋調査会理事長に就任。拓殖大学名誉教授に就任。
- ・昭和8年(1933年)カナダ・バンフにて開催の第5回太平洋会議に出席。ビクトリア市にて客死。

新渡戸稲造博士が、英文で『武士道』を著述されたその10年ほどまえ、1890年頃、ルビギの法學大家ラヴレ教授の歓迎を受け、その地に教員として時勢の活潑な宗教の問題に向いた。日本では宗教教育はないのだと—ありせん。宗教なし—は道徳教育を授けられた。博士は即答した。28才博士は少年時代、道徳の教育は、学校では教えられるので、1891年博士は米国メリー夫人と結婚し、帰国して夫婦は体調をくずれ、特にラヴレ夫人転地療養を長期滞在された時があった。その時期に妻は、かくいふ思想・風習が、日本に受け入れられた理由は、七代目向かされた。我が妻はラヴレ教授に満足な答がいた。その結果が、この英文BUSHIDOの序文の書きはじめに上記する。BUSHIDOはラヴレとありす。28才

その内容は、封建制度の、武士道の、少年時代に開いたことと、板巻に記述される。これはBUSHIDOの説明には、政術の歴史的文章から、類例を引いて記述した。これ、佛敎、儒敎、神道等にやれど、キリスト敎の説明の工夫が評された。以上が、BUSHIDOの序文の、二三情報流の理解のほどに、

と云ふ、見込戦後60年(2003)『武士道解題・著者追記』(小学館)が出版された。即、著者追記の、感動は、右の空欄を以て、次頁に続行して頂くこと。



これは、昭和59年(1984)発券の5000円の物札です。肖像は、新渡戸稲造(1862~1933)著書の発刊の際、55才の時の写真に似、経新前に生きた、明治・大正・昭和を通じて教育家であり、農学者・思想家であった。明治33年(1900)英文で著述した『武士道』が、世界を沸かした。『われ太平洋の橋をたづね』と云ふは、東奔西走し、活動的の偉人であった。お札の左下の地球の裏は、太平洋を真中心、日本の左端に示さ、右端に北米大陸が示す。その間、太平洋が落しと描かれた。新渡戸稲造の『太平洋の橋をたづね』を象徴した図柄である。著者は、新渡戸稲造の下掲の経歴を、見られたこと。

新渡戸博士が、武士道初版発行6年後の『増訂第10版序』に次のようにある。4才

小著が、世界各地に多くの同様の読者を見いだすことを思ひ、満足の上なり。これにより、本書の扱った問題が、世界一般にとり興味のあるところである。郵信頼りな諸君の報知であるが、此の点に大満足である。本書を流し、友人の間に配られた。(30冊ほど)というに聞かされ、私のこの上の光栄に極めた次第である。

この版の改訂にあり、实例を多少追加することに、私は、『忠』についで一章を加えること、之を述べたことを遺憾に思ふ。『忠』は『忠』と云ふ、日本道徳の西輸入と云ふこと、止む理由は、ほむゆな。この『忠』に同様の西洋人の感懐を知らせたいのである。私は他日の問題に補足しようと思ふ。1905年1月10日東京小石川に記す。

1904年(明治37年)日露戦争で事情変化。1918年(大正7年)博士は国連事務次長。1933年(昭和8年)神戸市で客死。71才『太平洋の橋をたづね』の志は夢に終わった。

1945年(昭和20年)8月15日、日本敗戦。日本古来の美徳を教育者、著者に示され、新渡戸博士も武士道も忘れられ、久し。

20余年前、新渡戸博士肖像を仰いだこと、これに日本も、シヤキリとするが、と感動した。博士の遺言は、早稲造は、政治行政者、タラシ、今日に至る。

# 李登輝



ノーブレス・オブリージュとは

# 武士道 解題

私は本書をこう読んだ

●阿川弘之……作家

「昔の日本の良いところは台湾に残っている」とは、よく言はれることだが、それをしっかり身につけた代表的人物をひとり選ぶとすれば、やはり李登輝前総統であらう。忠誠心、勇氣、礼儀正しさ、慈愛の心等々、その「良いところ」を総合象徴するものとして、李登輝先生はいつも、新渡戸稲造の著書「武士道」をお挙げになる。かつて台湾総督府の農業関係技師をつとめた新渡戸博士のやうな理想家肌の学者、技師、教育者たちが、二十世紀前半、台湾の青年たちの胸に、直接間接、台湾近代化、自由化、大発展の希望の灯をともしたのである。本国の日本で昔の良さが失はれつつあるこんにち、今度は私たちが、台湾の人から理想の灯、希望の灯をともしてもらはねばならぬ。「日本人よ、やまところを取り戻せ」と、前総統が諄々説いて止まない此の一冊は、二十一世紀の日本人必読の書と讀へても過言ではあるまい。

## 日本人よ、やまところを取り戻せ

李登輝氏は、1923年(大正12年)日本統治下の台湾台北県に出生。20歳は、2003年4月初版と発刊された。当時80歳。左掲の「私は本書をこう読んだ」多くの諸賢の書評の中から、先づお薦めする。小生の所感も、併せて述べたい。

李登輝氏は、大日本帝國に生れ、心は合衆日本人。経歴は下の通り。  
(日製台北高等学校(台北師範学校) 京都帝國大学農学部、  
1944年、日本陸軍志願入隊、二等兵から陸軍少尉に  
1945年 敗戦後、京大へ進学、1946年 台湾大学へ編入  
1948年 台湾大学卒、1952年より 台湾大学講師  
1952~1956年 台湾省農林庁、その間にアメリカ留学  
アバタ州立大学農業経済学部  
1958年~ 台湾大学教授、国立中央大学工科大学院 農学博士  
1971年 国民党入党 1978~1981年 台北市長  
1984年 蔣経国総統の信任で、副総統  
1996年 台湾総統 2000年 民進黨に敗れ退任  
2001年 心臓病治療のため米国、現在も健康勝 85歳

李登輝前総統の巻頭序文は—— いま、再び「武士道」。いま、救わねば人類社会は、未曾有の危機に直面し、20世紀は、大敗北、内戦紛争の連続、不安と不満の幕。21世紀のはじめ、2001年9月11日、二二五と二〇〇一とDC9同時多発的未曾有のテロ事件が起った。これはアメリカ一國主義唯一の指導國家としての権威と信頼の崩壊の表現である。

この時期に、世界有数の経済大國であり、平和主義國家であった日本に、国際社会の期待と希望が、大きく降りつた。しかし、残念なことに、1945年(昭和20年)8月15日、やまところを、武士道、日本の道徳規範は根底から否定され、日本の驚異的互経済成長期には、これらに代わられることが、10年不到に続き、いま「100年一変の大バニク」に、直面し、サブプライムローンの失業も起る金融破綻と投機マシンの暴落、に於て諸賢深慮の狂乱に世界中の経済は沈滞の底にある。

「解題」とは広辞苑に「本書著作の由来その他の諸々の解説の意。矢野龍渓の訳は「日本の魂」。李登輝の解題は、「やまところ」とあります。アメリカの、個人主義一國主義、と二信者主義とは違ふ。「ノーブレス・オブリージュ」新渡戸博士と、李登輝元総統の本と下敷には、両氏の正道と敬意を、武者敬白

●石原慎太郎……作家

国家への愛情が失われて久しい。政治も、行政も、経済も、外交も、社会全体が朽ち果てていく今の日本の姿を、多くの日本人はただ、ただ傍観するのみである。台湾の李登輝前総統——私の知己で敬愛する政治家のひとり——がそんな日本にメッセージを投げかけてくれた。「武士道」解題」は情けない現代日本人への警世の書である。

●金美齢……台湾総統府国策顧問

日本人クリスチャン新渡戸稲造が英語で著した『武士道』を、台湾人クリスチャン李登輝が日本語で読み解く。二人の国際人が考えるノーブレス・オブリージュ。このストイックな精神が日本を再生させ、台湾を自立させる。これこそ二十一世紀のバイブルである。

●櫻井よしこ……ジャーナリスト

日本へのこれ以上誠実なメッセージがあるだろうか。李登輝前総統の日本への想いに感動。

●加藤武子……新渡戸稲造博士の孫

李登輝様のことは娘共々かねてより尊敬申し上げておりました。この御方が祖父新渡戸稲造の「武士道」の解題をお書き下さるうとは、何んという幸せでしょう。しかも祖父の言わんとする処を、正しく深くご理解下さり、魂の兄弟とはこういうことだと思わされました。

●中嶋嶺雄……国際社会学者

沈みゆく日本を再生するための精神的支柱として新渡戸稲造の『武士道』こそ、国際的にも評価される価値観だ。李登輝さんは誰よりも早く、深くこのことを説いていた。

●加瀬英明……外交評論家

私は台湾が羨ましい。李登輝氏は二十世紀後半の最高の哲人政治家である。天が台湾に与えた素晴らしい贈物だ。本書の一句一句が心に沁みる。

### no-lesse o-blige

【ノーブレス・オブリージュ】英語・仏語

高い身分に伴う義務：金持ちや身分の高いものは、そうでない人々を助けなければならないという考え方。

【諺】(貴族の身分は義務を課する→) 貴族[高い地位にある者]は、その身分[地位]にふさわしく振舞わねばならない。